



江戸の賑わい処「亀戸梅屋敷」

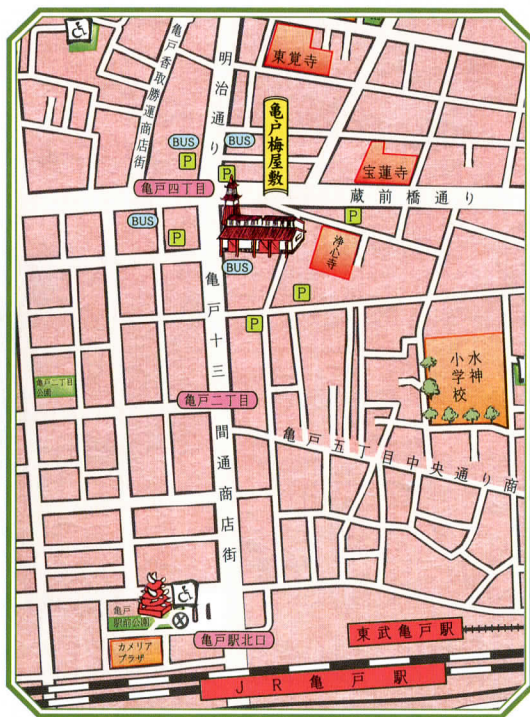
江戸時代、亀戸には呉服商・伊勢屋彦右衛門の別荘「清香庵」があり、その庭には見事な梅の木々が生えていました。立春の頃になると江戸中から人々が北十間川や豎川を舟でやってきて、この地はたいそう賑わったといえます。

特に、庭園のなかを数十丈(150m)にわたり枝が地中に入ったり出たりする一本の梅が名高く、評判を聞きつけこの地を訪れた水戸光圀は、まるで竜が臥しているようであると感嘆し、その木に「臥竜梅」の名を与えました。また、八代將軍徳川吉宗は「一旦土に入った枝が、再び地上に這い出る様を生命の循環になぞらえ、「世継ぎの梅」と命名し賞賛したそうです。

「亀戸梅屋敷」の名で人気を博したこの梅の名所は、多くの浮世絵で題材となっていますが、なかでも浮世絵師・歌川広重が安政三年(1857年)に描いた『名所江戸百景』の「亀戸梅屋敷」は、江戸の時代に海を越え、かのフィンセント・ファン・ゴッホが模写(作品名「日本趣味…梅の花」/1887年)するなど、日本のみならず世界から評価された傑作と言えるでしょう。

粋な江戸っ子たちを魅了し、その名を世界に知らしめた「亀戸梅屋敷」。

当時の如き賑わいの場として、そして、江戸/下町/亀戸の粋な歴史と文化を世界へ発信する拠点として、当館を「亀戸梅屋敷」と名付けました。



[Access]

電車 JR & 東武線「亀戸駅」から徒歩7分

バス 里22、草24、上26、門33、南千48系統
「亀戸四丁目」停留所より徒歩1分

※駐車場はありません。地図上Pで示したコインパーキングをご利用下さい。

亀戸梅屋敷



〒136-0071 東京都江東区亀戸4-18-8

☎03-6802-9550

営業時間 9:30～18:30 定休日 月曜日(祝日の場合は翌日)

www.kameume.com

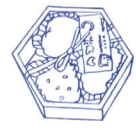
江東区内のおすすめスポットや観光イベントは
観光情報サイト「江東おでかけ情報局」をチェック → www.city.koto.lg.jp



施設案内図

いまなお人情と江戸の風情が色濃く残る亀戸に、開館した「亀戸梅屋敷」。

こは、観光案内や名産品販売、各種イベント開催など、江戸・下町情緒を愉しむにふさわしい、二層米下駄の二階。



福亀館

亀戸の見所案内と、名産品を販売する和風造りの空間です。取り扱い商品のなかには「亀戸梅屋敷」だけの限定品もあり、お土産におすすめです。



亀戸名産店

亀戸は、創業二百余年の老舗から話題の新味まで多彩な美味しいものや、伝統が息づくモノづくりが集う街です。そんな自慢の品を一堂に介したのが、この物産コーナーです。暮らしに彩りをそえる、亀戸の愉しみをぜひご堪能ください。

江戸切子



江戸時代末期から続く製作技法を守りながら、伝統工芸士によって継承されている江戸切子。鋭敏なカットによる輝きと、華やかな模様的美を、ご覧いただけます。



梅結館

地域住民、そして観光のお客さまの交流の場として、どなたにも気軽にご利用いただけるくつろぎ空間です。各種イベントや展示会も開催します。



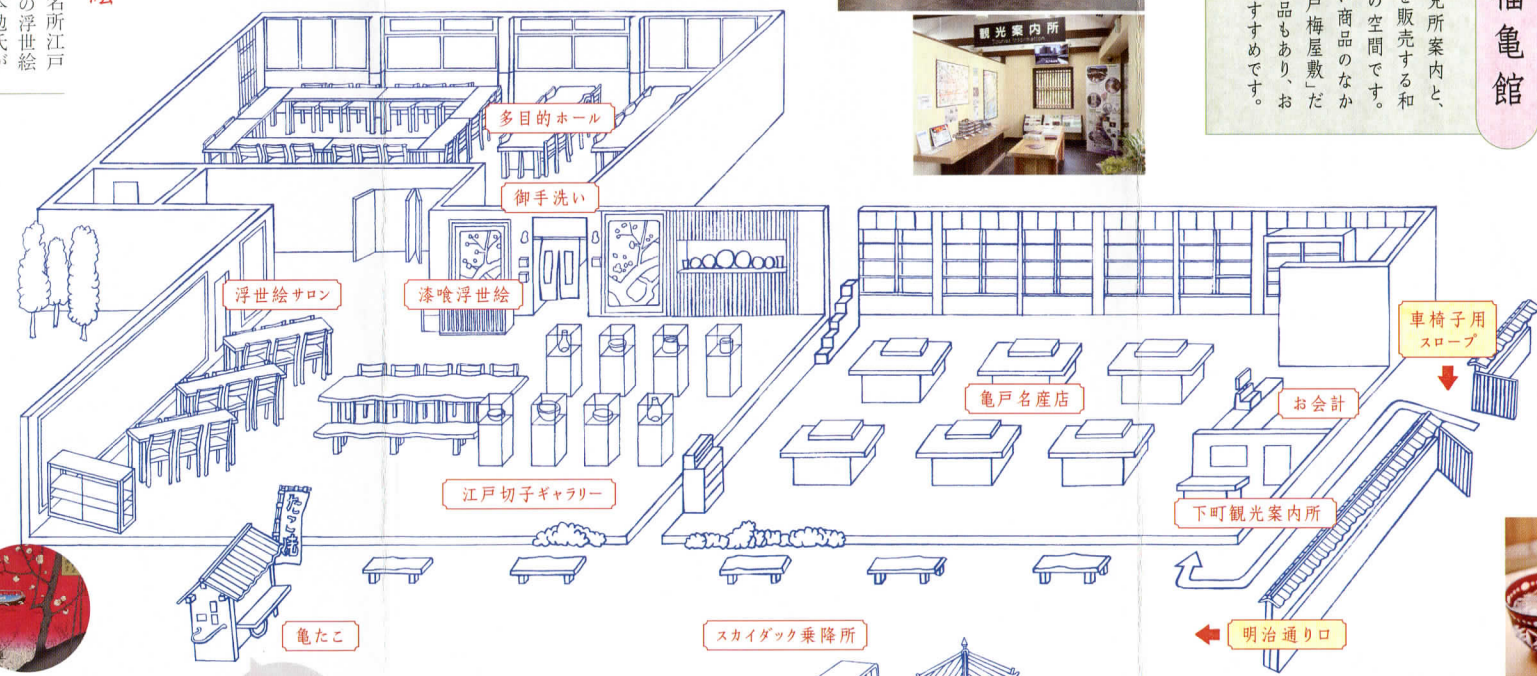
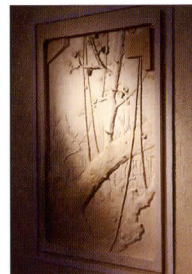
多目的ホール

会合や講演会、各種展示会まで、催事内容に合わせてレイアウトが可能なホールです。ご希望によってはケータリングサービスのご相談も承ります。最大座席数は110席。1000円/時間



漆喰浮世絵

歌川広重による「名所江戸百景 亀戸梅屋敷」の浮世絵を、漆喰職人の松本勉氏が立体作品に仕上げました。実際に触っていただける、当館ならではの一作です。



浮世絵サロン

巨大な浮世絵に囲まれた空間に、天然の秋田杉のテーブルを配した趣のある空間です。スカイダック待ちや亀戸散策のご休憩、喫茶をご利用いただけます。



浮世絵アドボード

名作「名所江戸百景 亀戸梅屋敷」を舞台に現代のお店やブランド、商品を紹介する広告ボードは当館ならではの名物。どんな企業の広告か……。江戸と今のタイムスリップをご堪能ください。



スカイダック

当館は、都内初の水陸両用バス「スカイダック」の発着ターミナルです。古き良き下町の雰囲気や水彩都市・江東の川巡りをどうぞお楽しみいただけます。

火の見櫓

亀戸梅屋敷のシンボルともいえる、高さ約8mの大きな櫓は防災無線放送設備でもあります。緊急時には亀戸地域住民をはじめ、皆様の安全のために活躍します。

